

# 鳥獣センター通信

## Topics

当センターでは、鳥獣被害対策マイスター等を対象として、被害防止対策の適切な知識の普及や、現地における技術定着等を目的に研修を実施しています。今回は、2つの研修についてご紹介します。

### 技術向上研修会（中・小型獣対策）

#### (1) 座学

外部講師（ネイチャーステーション 古谷氏）を招き、アライグマやアナグマなど中小型獣の生態や被害の見分け方などについて説明していただきました。また、現場での被害対策について、写真や動画を交えながら説明していただきました。



昨年度と同様、過去にアライグマが捕獲・目撃されている県北地区を会場にし、参加者の皆さんに現場で痕跡を確認していただきました。今回の研修をきっかけに、アライグマ侵入への危機感を持ってもらえたら良いなと考えているところです。

#### (2) 現地研修

アライグマと思われる痕跡（柱の傷等）がある4箇所地点の痕跡調査を行いました。講師に痕跡を確認していただき、4箇所全てでアライグマの痕跡を確認しました（一部、テンの痕跡もありました）。

今回の調査箇所の一部については、センサーカメラを設置し、引き続き調査を行う予定です。



アライグマの爪痕

### ジビエに関する人材育成研修

ジビエの普及拡大に資する人材の育成を図るため、衛生管理や解体処理技術に関する研修が開催されました（主催…農政企画課 中山間農業振興室）。

麻布大学 森田幸雄氏を招き、衛生研修及び解体処理の基礎技術についてお話をさせていただきました。

座学では、野生鳥獣を取り扱う際の注意点やHACCPに基づく衛生管理、解体時の注意点等について説明していただきました。

また、今年度西米良村で実証を行っているジビエカーを会場に招き、（株）米良資源開発の方々に解体処理の実演を行っていただきました。



ジビエカー



解体の様子



### 担当者の一言

「鳥獣クイズ」やってます！

当センターでは、毎月「鳥獣クイズ」と題して、野生鳥獣に関するクイズを出題しています（執務室入口のドアに掲載中）。試験場の職員の方や、来場される方々に「野生鳥獣のことを知ってもらいたい！」という気持ちで始めたこのクイズ…。

たまたまに、執務室の外から「どっちがムクドリ？」とか、「シカの足跡はこっちやろ？」という声が聞こえると見てもうれたんだな〜と嬉しい気持ちになります。

### 鳥獣クイズ(8月)

大事に育てていたスイカに穴があき、中身が空洞になっています。どの動物が食べたのでしょうか。

- ① カラス
- ② タヌキ
- ③ アライグマ



7月のクイズの正解は②アナグマ

↑過去に出題したクイズ。（答えは③）

毎月、Y主査が「今月はどんなクイズを出そうかな？」と頭を悩ませていますよ！  
総合農業試験場にお越しの際は、是非、3階まで足を運んでいただき、鳥獣クイズに挑戦してみてくださいね！

被害対策に関する問合せ

西臼杵支庁及び各農林振興局

各市町村・各農協・各森林組合等

# ☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

## 東臼杵（南部）地域

○令和6年度鳥獣被害防止対策研修会を開催

東臼杵南部地域において、日向市（11/28）、椎葉村（11/20）で、本年度新たにワイヤーメッシュ柵の設置を行う集落の農業者を対象に、鳥獣被害防止対策に係る研修会を開催しました。

当地域の鳥獣被害は、各種対策の効果もあって減少傾向にありますが、シカ、イノシシ等による水稲や果樹等の農産物、人工林等への被害が続いています。

研修会では、普及センターから「集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策」と題し、被害の大きな原因は集落で進む「餌付け」であること説明。県外で成功した優良事例を動画で紹介して、集落みんなで一一致協力して、正しい取組順序で対策を行うことで効果が上がることを理解していただきました。

さらに、鳥獣被害対策支援センターから、「鳥獣被害対策の基礎知識」と「鳥獣被害防止柵の設置と維持管理のポイント」について、被害が発生する要因を踏まえて、効果的なワイヤーメッシュ柵の設置方法や設置後の注意点を講義していただき、参加された方々は興味を持って注意深く説明を聞かれています。

市町村からは、柵設置の手続きとして、設置方法や工期、設置後

に提出が必要な書類等の注意点について説明が行われました。

また、椎葉村では、屋外で資材メーカーの担当者を交えて、ワイヤーメッシュ柵の設置実習も行いました。

今後、この研修会で学んだ手法を活かしながら効果的な鳥獣被害対策が実施され、被害の減少が進んでいくことが期待されます。



鳥獣被害防止対策室内研修



ワイヤーメッシュ柵設置実習

## 北諸県地域

都城市では、令和4年から5年にかけて、野生鳥獣による農作物被害が増加に転じたことから、被害防止柵の設置要望が年々増えています（令和4年の整備距離が約15km、5年が約16km、6年度が約48km。ちなみに、令和6年度の野生鳥獣等による農作物の被害は減少傾向）。

そこで、柵の設置研修にあわせて、集落を工サ場にしないための研修を都城市高城町で開催しました。この研修会には、今年柵を設置する9地区と、来年度に設置を要望している12地区の47名の農業者が参加しました。

室内研修では、市担当者から柵設置の工期や、設置後に提出が必要な書類等についてを説明、振興局からは、都城市の被害の現状と国交付金を活用する上での注意点を説明しました。

農業改良普及センターからは、「集落ぐるみの鳥獣被害対策について」と題して、集落全員が一致協力して対策を実施することで、効果が向上することを説明しました。

鳥獣被害対策支援センターからは、「鳥獣被害対策の基礎知識」と「ワイヤーメッシュ柵の設置・維持管理のポイント」と題して、効果的な柵の設置方法や、設置後の雑草管理等の要点を説明して

いただきました。

現地研修では、資材メーカーの担当者を講師に迎え、現地ほ場で、ワイヤーメッシュ柵の設置作業研修を実施しました。今後、この研修会で学んだ手法を活かしながら、各集落で柵の設置が進められ、対策が実践されることが期待されます。



設置作業研修（WM柵）



室内研修の様子